

## シンポジウム

### ◆ Society 5.0 を育む知財マネジメントとは？ ◆

#### 【講演者】原山 優子 氏

研究・イノベーション学会 会長

／国立研究開発法人理化学研究所 理事



#### 【略 歴】

1973年 フランス・ブザンソン大学理学部卒業

1996年 スイス・ジュネーブ大学院教育学研究科博士課程修了(教育学博士)

1997年 同大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士)

ジュネーブ大学経済学部助教授、東北大学大学院工学研究科教授、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局次長を経て、2013年3月から2018年2月まで総合科学技術会議議員(常勤)。2020年4月より国立研究開発法人理化学研究所の理事として、国際協力、広報、イノベーションデザイン、ダイバーシティ、若手研究人材育成、コンプライアンス、SDGs、環境資源科学研究と研究環境に係る幅広い業務に従事、現在に至る。

2011年、フランス政府レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ受賞。

#### 【講演要旨】

第五期科学技術基本計画に Society 5.0 が登場し早5年が経過した。当初科学技術イノベーション政策の羅針盤として打ち出されたが、その解釈は多岐に渡り、キーワードとして浸透し、国際的にも認知度は上がったものの概念化に向けた道のりは未だ緒についたばかり。

科学技術の視点からはオープンサイエンス、イノベーションの切り口からはデータ駆動型社会との親和性が強く、経済社会活用においても、旧来型の産業構造がもたらす付加価値に対して、データが生成する付加価値に比重が移りつつある。Society 5.0 への移行を促す知的財産マネジメントとはいかなるものか？本講演では、Society 5.0 に関するこれまでの動きを振り返った上で、この問いを軸に知的財産の専門家の皆様と議論を深めることを試みる。